

2005年9月中間期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

05 / 9 は増収、営業利益は横ばい

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2005年9月中間期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	04/9	05/9(E)	05/9	05/9対04/9比較	
				増減額	増減率
売上高	2,284	2,400	2,355	70	3.1%
営業利益	78	78	77	-0	-0.6%
経常利益	74	76	76	2	3.2%
中間(当期)純利益	42	28	26	-15	-36.1%

1. 売上高

05 / 9 (E)・・・2005年9月中間期見込・・・は8月2日に発表したもの

加工食品は業務用の好調が牽引し6%増収、低温物流は前年稼働のセンターが寄与し9%増収、一方で水産は5%減収に

2. 営業利益

加工食品は売上拡大に伴う生産工場の操業度改善効果などで37%、8億円の大幅増益

水産はユーザルートへ付加価値の高い加工品販売に注力するも、主力の「さけ・ます」「魚卵類」の調達価格高騰により取扱を絞り込んだことから営業損失を解消できず

低温物流は前年新設稼働のセンターの寄与に加え、地域保管事業が地域密着型営業による着実な集荷とローコスト化が進み04 / 9比60%、12億円の大幅増益

不動産は土地分譲が減少したことにより12億円の減益

3. 経常利益

金融収支は04 / 9比1億円の改善

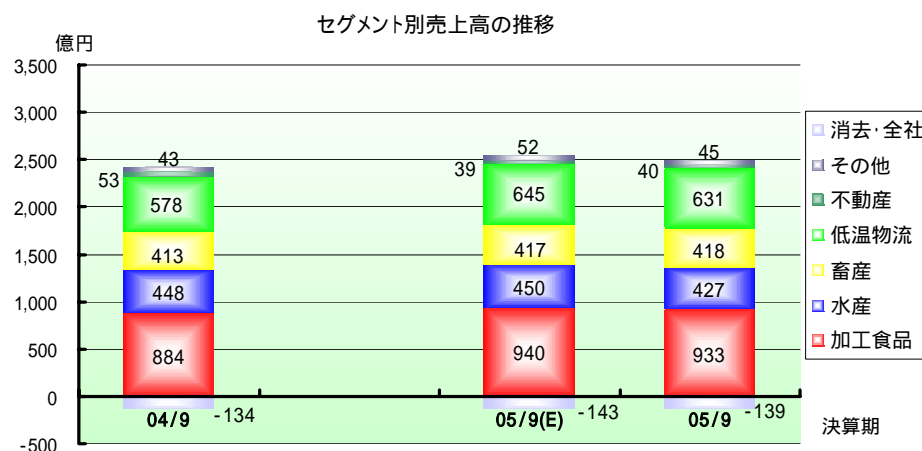
4. 中間(当期)純利益

特別損益は04 / 9比26億円のマイナス。減損会計の適用による損失が35億円発生

加工食品は増収・大幅増益、水産は営業損失解消できず

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)



1.加工食品

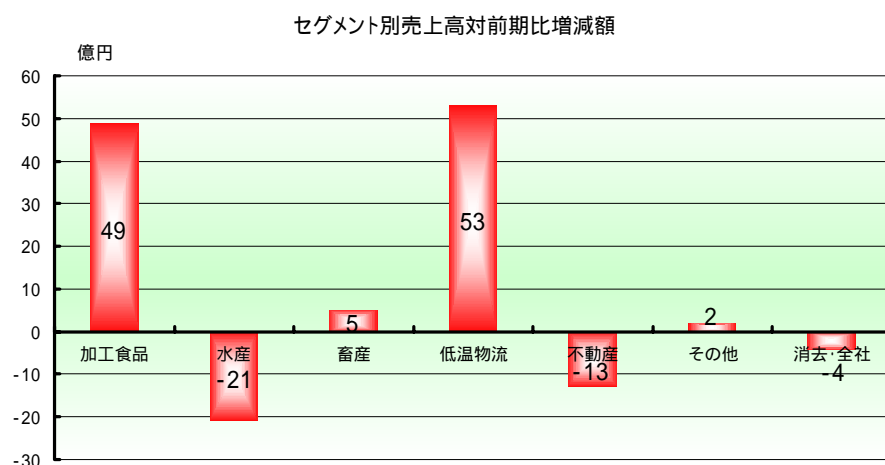
全体では04/9比で6%の増収、37%の大幅増益。冷凍食品は6%増収、チキン加工品が鳥インフルエンザ発生前の水準に戻り売上拡大を牽引、原価面もグループ工場の操業度改善や原料価格の沈静化など大きく改善が進み採算が向上、アセロラはコンビニ向けPETボトルなどの売上が伸張り04/9比で7%の増収。

2.水産

04/9比で5%の減収。えびは販売価格の低迷が続く素材品の取扱を絞り減収・減益。昨年からの損失を抱えてきたかには在庫処分を完了、たこは漁獲規制の影響が続く取扱の回復が進んでいない。全体では損失処分に加え、取扱量が確保できず固定費を賄えないため営業損失が拡大した。

3.畜産

鶏肉は輸入チキンを中心に増収、牛肉は国産生鮮品・豪州産ビーフが順調に推移するも牛タンの市況急落により損失が発生、豚肉は高値圏で推移する中、採算は向上したが04/9比で僅かに減収。

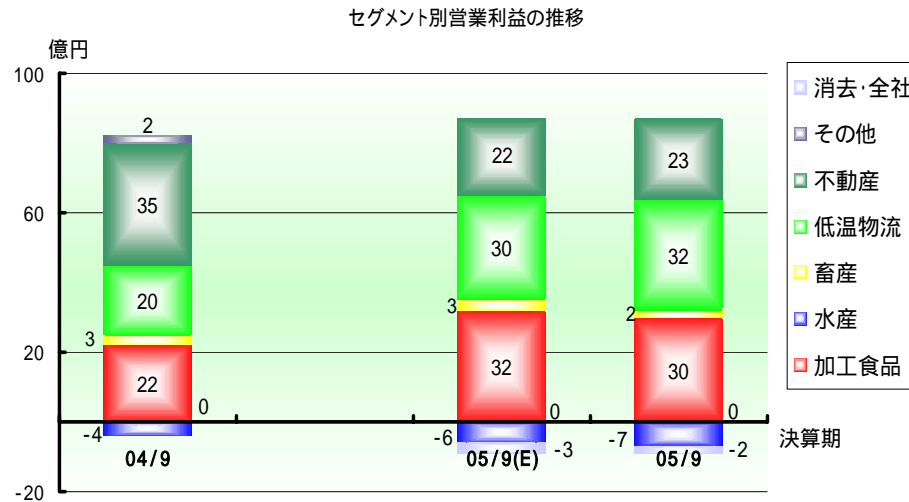


(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている) 2

低温物流は大幅増収・増益、不動産は減収・減益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4. 低温物流

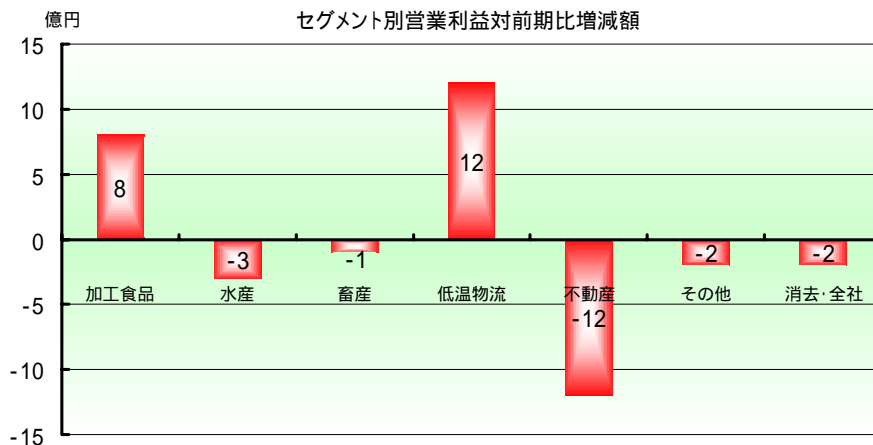
物流ネットワークの05 / 3に新設稼動した拠点のフル寄与と、地域保管の地域密着型営業による地場での集荷がすすみ04 / 9比で大幅増収、営業利益は地域保管のローコスト化の取り組みも相俟って04 / 9比で大幅な増益。

5. 不動産

04 / 9比で主に土地分譲の減少により減収・減益

6. その他

バイオサイエンスは培地製品が好調で増収だが利益率の高い機能性素材の取扱量が減り減益。米国のてんぐはBSEの影響が長期化し生産を大幅に縮小した状態が続く。



調理冷食は大幅増収、チキン加工品が牽引

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

04 / 9比6%の増収。調理冷食は家庭用・業務用を合わせると7%の増収と好調に推移。冷凍野菜はハッシュドポテトやブロッコリーの売上が伸張り7%の増収。

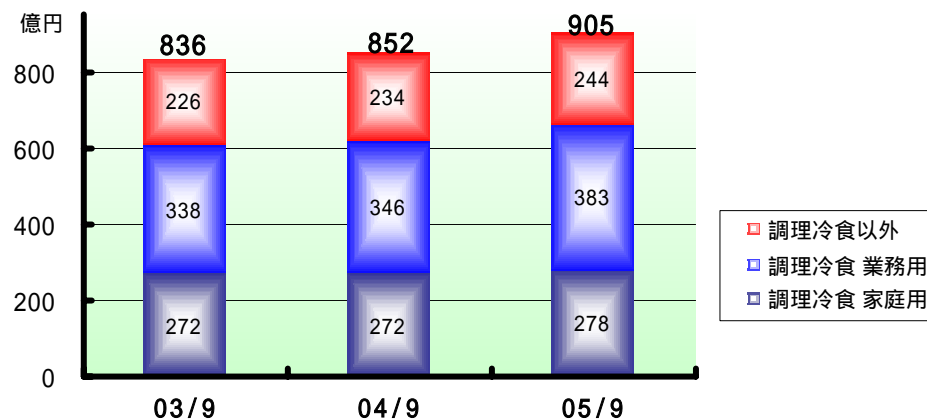
2. 調理冷食

家庭用: 売上は04 / 9比2%の増収。「本和風若鶏から揚げ」「若鶏たれづけ唐揚げ」などのチキン加工品が回復したのに加え、「甘えびシューマイ」や「本格炒め炒飯」が増収に寄与。一方、「お弁当にGood!」シリーズは「ミニハンバーグ」「やわらかひとくちカツ」「衣がサクサク牛肉コロケ」が好調に推移したものの、シリーズ全体の売上は伸び悩んだ。

業務用: 売上は04 / 9比11%の増収。「本和風鶏唐揚」などチキン加工品が牽引したほか、「れんこんと枝豆の肉だんご」などの「ほっとするおかず」シリーズが増収に寄与。

カテゴリー別には「やわらかひとくちカツ」やメンチカツ類が好調な食肉加工品をはじめ、「衣がサクサクのコロケ」シリーズのコロケ類や米飯類が好調に推移し増収に貢献。

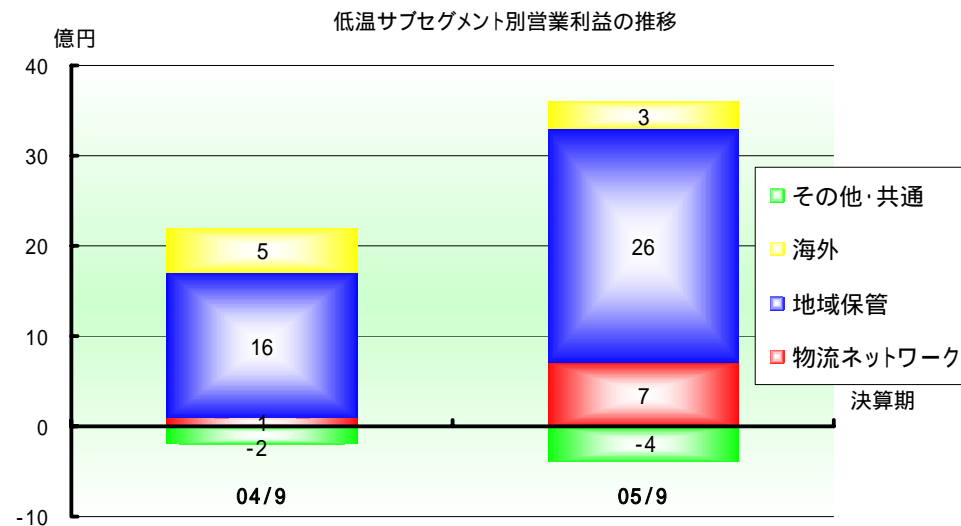
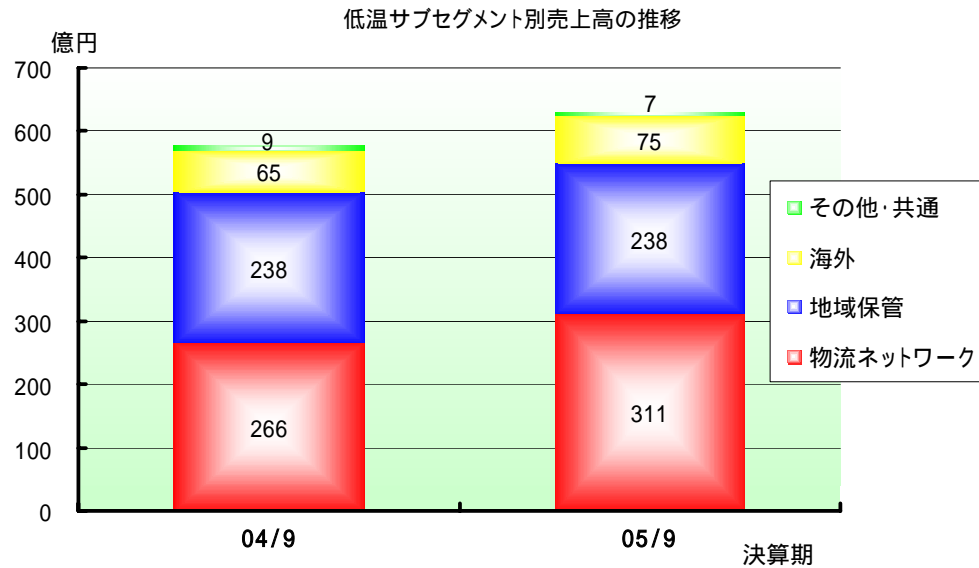
冷凍食品売上高の推移



低温物流は地域保管が大幅改善

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 物流ネットワーク

05/3に稼動した大手量販店向けをはじめ8件の新規案件が大きく貢献、運送事業の伸び悩みや配送効率低下といった利益圧迫要因があるものの、04/9比で大幅な増収・増益。

2. 地域保管

地域密着型営業による着実な集荷が進み取扱量が増加、苦戦の続いた首都圏も東京港湾地区を中心に大幅に在庫量が回復し、売上高は去年の九州地区食品部門売却による減収要因を除けば実質4%の増収。

組織再編による本社・地域各社管理要員の削減や固定費の変動費化が進み営業利益は大幅増益。

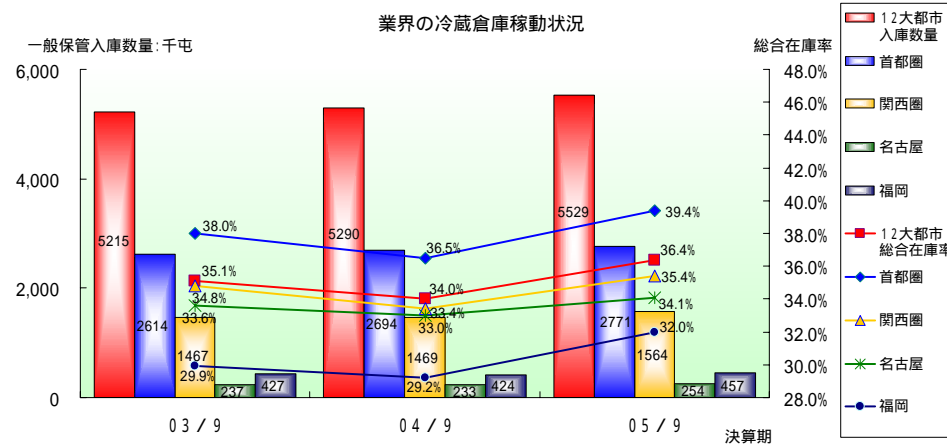
3. 海外

全体では04/9比で増収・減益。欧州では、運送事業が新規顧客獲得により増収、保管事業は果汁の取扱高が増加するものの一部荷主の撤退や競争激化による保管料率の下落により減収・減益

業界も当社も入庫量増加、在庫率は上昇に転じる

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

1.業界の状況

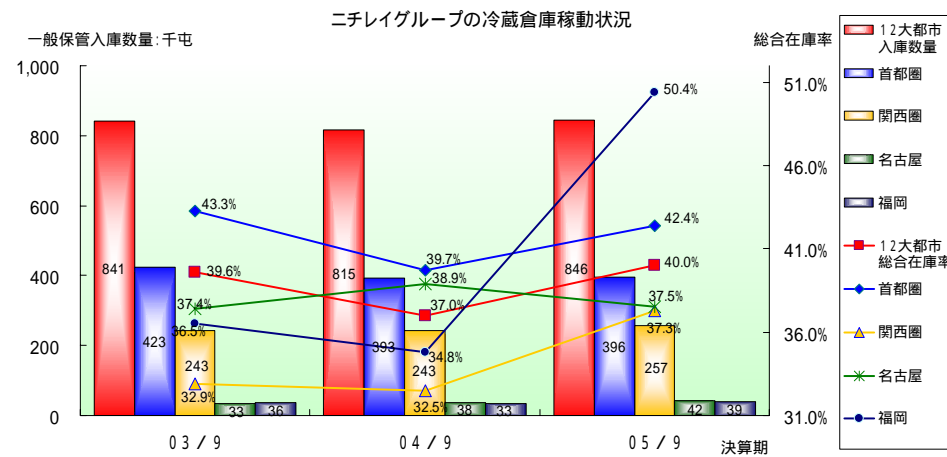
入庫量は畜産物輸入量の回復で首都圏をはじめ全般的に増加、在庫率も上昇に転じる。

2.ニチレイグループの状況

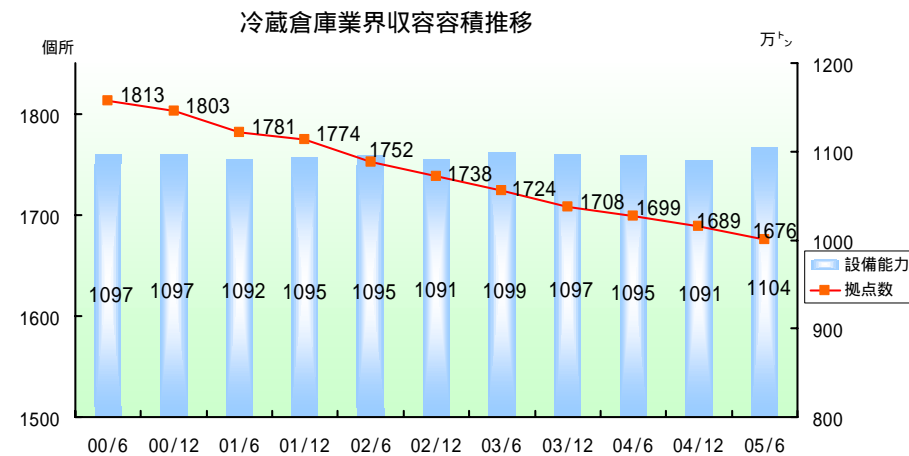
入庫量は鶏肉が順調に回復を見せ前年を上回る。在庫率は鶏肉輸入量の回復に加え首都圏を中心に豚肉の回転が停滞し上昇傾向が鮮明に。

3.業界の設備能力

拠点数の漸減傾向は続くが設備能力は下げ止まりの兆し。



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

使用資本の効率化で有利子負債残高は当初目標達成へ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

05 / 9期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て) 【主な要因】

科目	05/3	05/9	増減	
(資産の部)				
流動資産	1,088	1,131	43	
固定資産	1,675	1,652	-23	
資産の部合計	2,764	2,784	19	
(負債・資本の部)				
流動負債	933	1,005	71	
固定負債	883	790	-93	
負債の部合計	1,817	1,796	-21	
少数株主持分	6	7	1	
資本の部	940	980	40	
(有利子負債)	1,119	1,057	-61	
科目	04/9	05/9	増減	
(設備投資額)	26	21	-5	
(減価償却実施額)	54	53	-1	

売上債権が季節的要因で73億円増加。一方たな卸資産は水産品の在庫圧縮や取扱の絞り込みで12億円の減少。

設備投資抑制と土地の減損処理により有形固定資産が54億円減少、一方、投資有価証券が株価上昇により時価評価額が39億円増加。

季節要因により仕入債務が21億円増加。リース資産の減損処理によりリース資産減損勘定を18億円計上。

たな卸資産の圧縮や設備投資抑制など使用資本を効率化し借入金の返済を進める。06 / 3の期末残高目標1,000億円以下は達成する見通し。

05 / 9の設備投資の主なもの：

白石工場の冷凍食品製造ライン増設 2億円
高松東物流センターの荷捌室増床 1億円

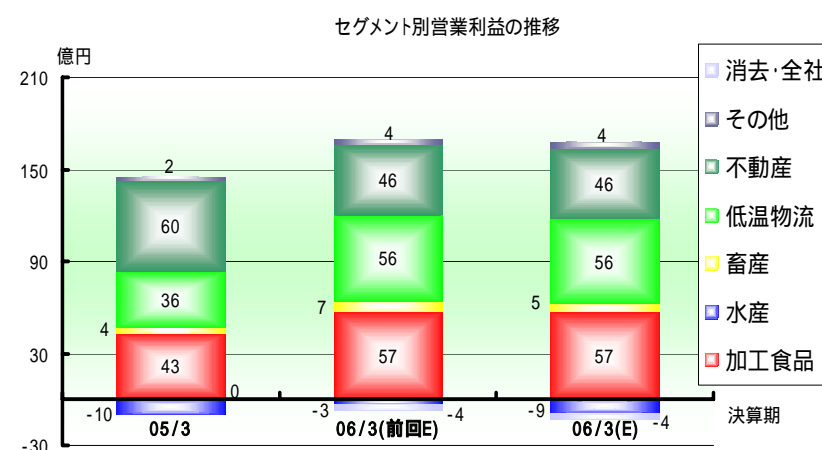
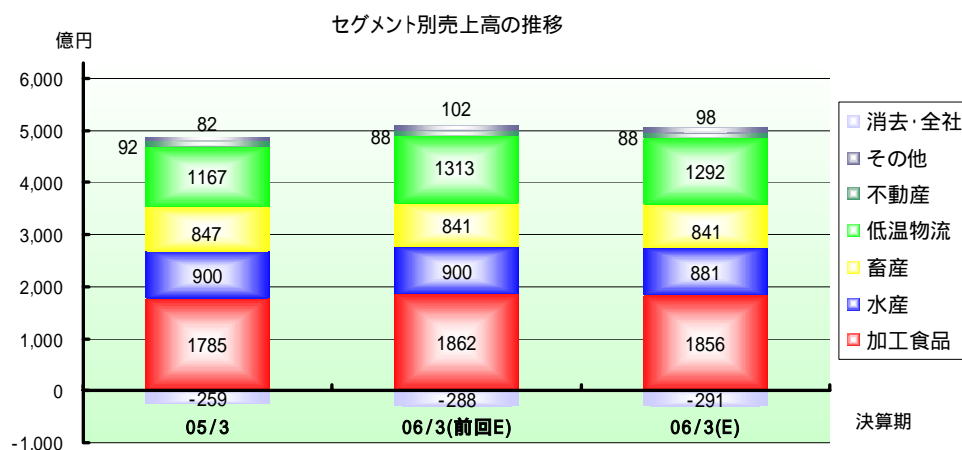
水産・畜産は減額修正も05 / 3比増収・大幅増益見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

2006年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	05/3	06/3(前回E)	06/3(E)	06/3(E)対05/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,614	4,818	4,765	+150	+3.3%
営業利益	134	163	155	+20	+15.0%
経常利益	128	157	150	+21	+16.3%
当期純利益	58	73	67	+8	+14.0%

06 / 3 (前回E) は8月2日に発表したもの



1. 加工食品はチキン加工品が牽引し売上伸張、操業度改善、コストダウンが寄与し大幅増益に。
2. 水産は取扱の絞り込みにより減収、営業損失幅が拡大する。
3. 低温物流は物流ネットワークの05 / 3新設稼働拠点が売上増に貢献、地域保管の改善も大きく進み通期では大幅な増収増益に。

特別損益は減損会計の適用で前期比マイナスに

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	中間期				通期		
	05/9	04/9	増減		06/3E	05/3	増減
【営業外収支】 (主要項目)	- 1	- 4	+ 2	【営業外収支】 (主要項目)	- 5	- 5	+ 0
金融収支	- 4	- 6	+ 1	金融収支	- 11	- 13	+ 2
持分法投資損益	+ 5	+ 6	- 0	持分法投資損益	+ 10	+ 14	- 4
【特別損益】 (主要項目)	- 27	+ 3	- 31	【特別損益】	- 34	- 20	- 13
固定資産売却益	+ 11	+ 1	+ 10				
投資有価証券売却益	-	+ 11	- 11				
減損損失	- 35	-	- 35				
営業権評価損	-	- 5	+ 5				

持分法投資損益の増減の主な内訳

中間期:アールワイフフードサービスが微減

通期:アールワイフフードサービスが 2億円、京都ホテルの持分低下で 1億円、イナ・ベーカリーが持分法適用から外れ 1億円

土地の売却益

1Qで減損会計の適用による損失を35億円計上

下半期に発生が見込まれる主なものは

- 固定資産除却損

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位: 億円 (単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	中間期				下期				07/3計画		06/3 (E)	(前回E)	05/3	
	05/9	(前回E)	04/9		06/3 (E)	(前回E)	05/3		新基準	旧表示			新基準	旧表示
			新基準	旧表示			新基準	旧表示						
(売上高)														
加工食品	933	940	884	-	923	922	901	-	1,950	-	1,856	1,862	1,785	-
水産	427	450	448	-	454	450	452	-	1,155	-	881	900	900	-
畜産	418	417	413	-	423	424	434	-	866	-	841	841	847	-
低温物流	631	645	578	-	661	668	589	-	1,480	-	1,292	1,313	1,167	-
不動産	40	39	53	-	48	49	39	-	70	-	88	88	92	-
その他	45	52	43	-	53	50	39	-	99	-	98	102	82	-
全社または消去	-139	-143	-134	-	-152	-145	-125	-	-250	-	-291	-288	-259	-
合計	2,355	2,400	2,285	-	2,410	2,418	2,329	-	5,370	-	4,765	4,818	4,614	-
(営業利益)														
加工食品	30	32	22	30	27	25	21	26	71	88	57	57	43	56
水産	-7	-6	-4	-1	-2	3	-6	-5	11	16	-9	-3	-10	-6
畜産	2	3	3	5	3	4	1	3	6	10	5	7	4	8
低温物流	32	30	20	29	24	26	16	23	73	85	56	56	36	52
不動産	23	22	35	35	23	24	25	25	40	40	46	46	60	60
その他	0	0	2	2	4	4	0	1	6	9	4	4	2	3
全社または消去	-2	-3	0	-22	-2	-1	0	-16	-4	-45	-4	-4	0	-38
合計	78	78	78	78	77	85	57	57	203	203	155	163	135	135

注: (E) は今回発表した見込数値、当初(E) は8月2日に発表した見込数値

: 「新基準」は持株会社体制への移行による「グループ経営運営費用」の配賦に伴い、遡及修正した前年数値

: 「旧表示」は遡及修正前の前年数値

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- 食品に関する衛生問題等
- 商品や原材料の価格変動
- 商品回収リスク
- 固定資産の保有リスク
- 保有有価証券の時価変動リスク
- 為替変動リスク

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。